入学おめでとう

入学を祝して

中央大学学長
河合　久
KAWAI Hisashi

今春、本学における学生本位の対応姿勢や多大な支援のもとでの修学環境の維持・充実の取組みに理解を示され、中央大学に学びの場を求める皆さんを、教職員一同、心から歓迎致します。皆さんが大学進学のために重ねられた努力を讃えますとともに、本学への入学をお祝い申し上げます。

中央大学は1885年に「英吉利法律学校」として創立されて以来、「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもとに、138年の歴史と白門を象徴とする伝統と実績を築き、いつの時代にも社会を支え、未来を拓く人材を育成し、社会に貢献することを使命として参りました。学問や研究は、実社会とそこに生きる人々に無縁ではなく、現実事象から課題を発見し、理論を還元するといった形で、社会の営みとの相互作用により発展すべきです。常に時代とともにあり、社会の変化に適合するよう進化する。「實地應用ノ素ヲ養フ」は、このような学問研究の姿勢に根ざす教育観を表したものです。したがって「素」とは社会に応用できる力の素地であり、「素ヲ養フ」とは知識はもとより、さまざまな体験や人との交流の中で培われるコミュニケーション力や議論する力、組織的な判断力、そして弛まず学び続ける力の涵養にほかなりません。

社会は今、ウィズコロナを見据えた新しい道筋を模索しています。未曾有のコロナ禍にあって、産業構造やその社会基盤の変化が顕著です。また、多様化の時代を迎え、私たち人類は、従事する当面の仕事や得意分野にこだわらず、異分野との融合、そして、まったく新しい人間関係や組織間の有機的相互関係をもって、新たな世界を共創していく時代に直面しています。これから本学で学び、学生生活から得る成果を、新たな世界に価値あるものとして実装できるよう心掛けていただくことを、心から期待しています。そのことこそが本学のユニバーシティメッセージである「行動する知性。」を、ご自身によって体現することになるからです。

さまざまな困難と不自由のなかでも、希望と志をもって勉学に励む皆さんを、私たち教職員一同は、精一杯、応援しています。くれぐれも健康に留意され、将来に向けた歩みを着実に進められることを心から願っています。皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、お祝いのご挨拶と致します。

大学は遊びに満ちた結界である

法学部長
猪股 孝史
INOMATA Takashi

新入生の皆さん、ご入学、まことにおめでとうございます。皆さんが中央大学法学部に入学されましたことを歓迎いたしますとともに、心からお祝いを申しあげます。今日にいたるまで、新入生の皆さんを励まし、支えてこられた、ご家族の皆さん、そしてご関係の皆さんにも、祝意と敬意を表します。

新入生の皆さんは、大学という時間と空間にどのような期待を寄せているでしょうか。苅谷剛彦＝吉見俊哉『大学はもう死んでいる？ トップユニバーシティーからの問題提起』（集英社新書〔2020年〕279頁）は、ヨハン・ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』における主張を敷衍するならばとして、「自由の根幹は遊ぶことにあり、この遊びの時間の中にこそ大学の学びの時間の根幹もある。」、「大学の魅力と学問への信頼は、社会に上手に適合すれば得られるものではない。むしろそんな社会から悠々と跳躍する力が知に求められる。大学が遊びに満ちた結界であることは、ますます必要なのである。」と、今日のアカデミック・キャピタリズムをやんわりと躱しつつ、鮮やかに喝破しています。そこで参照された『ホモ・ルーデンス』（高橋英夫・訳、中公文庫・改版〔2019年〕）は、1938年、ライデン大学の学長であったヨハン・ホイジンガによる名著で、「われわれ人間は、理性を信奉していたある世紀がとかく思い込みがちであったほど理性的であるとは、とうてい言えないことが明らかになった」（11頁）との認識のもと、ホモ・サピエンスと並ぶ人間存在の根源的な様態を示すものとして「ホモ・ルーデンス（つまり、遊ぶ人）」を提出し、その第一の特徴として、遊びとは「何にもまして一つの自由な行動である」（30頁）と指摘するのです。

大学という時間と空間は、規律ある自由にあふれています。その自由をどのように享受し、謳歌していくか、それは新入生の皆さんの手の中にあります。学問を究めるもよし、資格試験の準備に邁進するもよし、部活動に熱中するもよし、海外留学して見聞を広めるもよし、ボランティア活動に勤しむのもよし、どのようであれ、新入生の皆さんには、中央大学法学部で無限の可能性を追求しつつ、「行動する知性。」を身に付けてほしいと願っています。

残念なことに、現下の社会状況のもとでは制約があり、また多くの困難もあるでしょう。けれども、そのような中にあっても、わたくしたち中央大学法学部の教職員は、新入生の皆さんを支援し、協働するために存在します。いつでも遠慮なく声をかけてください。

正解のない経済学を学ぶ意義

経済学部長
佐藤 拓也
SATO Takuya

ご入学おめでとうございます。皆さんが経済学部に進学した理由は何でしょうか。経済学部が第一志望だった人、学部よりも中央大学を志望していた人、実はそのいずれでもなかった人。理由はともあれ、私は、皆さんが経済学部に進学したことは、とても良かったことだと思っています。それは、経済学は簡単に正解が出る学問ではなく、本やインターネットの文章を暗記しても、何にもならない学問だからです。

たとえば、「少子高齢化が進むと高齢者を支える人が少なくなる、だから年金制度を維持するには消費税を増税するしかない」といったことが、ニュースやワイドショー、時には政府や「識者」からも言われます。これは、ある見方に基づけば正しいですし、別の見方に基づけば正しくありません。ここではほんの一例にすぎませんが、一口に「経済学」と言っても、そこには多種多様な見解があります。ある授業で習ったことが、別の授業では全否定されるというように、高校時代では考えられなかったことにも巡り合うでしょう。しかし、この多種多様な考え方を学ぶことこそ、テレビやインターネットなどの「見解」であっても鵜呑みにしない知識と判断力、思考力とを身に着けることにつながるのです。しかも経済学部では、それを一人で勉強するのではなく、ゼミなどを通じて、異なる意見の友人たちと議論をしながら学ぶのです。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、誰もが緊急事態宣言の下で自粛することを仕方のないものとして受け入れ、それ以外の考え方を持つことが許されないような、一歩間違うと危険な雰囲気を生みました。こうした時代だからこそ、今起きている出来事に対して、一人ひとりが複数の見解を吟味したうえで、確固とした考え方に立つことが問われます。それを可能にするのが、多様な見方を提供する経済学部での学びです。

もちろん、勉強以外にも色々挑戦して下さい。私は学生時代、授業、ゼミ、部活、アルバイトのどれも力を入れ、毎日の予定が埋まっていました。他にも留学、ボランティア、遊びなど何でもよいので、皆さんが中央大学という場を最大限利用し尽くすつもりで学生生活を楽しんでくれることを、心より願っています。

ご入学おめでとうございます

商学部長
井上 義朗
INOUE Yoshio

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本日この日を迎えられましたことを、教職員一同心よりお慶び申し上げます。また、ご家族様をはじめ、これまで常に寄り添い、励ましてこられた皆様方にも心よりお祝い申し上げます。皆さんの夢と希望をかなえるために、少しでもお役にたてることを教職員一同願ってやみません。どうぞ、中央大学でしか得られない、充実した大学生活を築いてください。

中央大学商学部では、ビジネスの原理を中心に学んでいきます。企業を経営するにはどうしたらよいか。企業が必要とするお金はどうやって調達したらよいか。作った製品をどのようにしたら多くの消費者にとどけることができるか。そして、どのようにしたら１年間の活動の成果を正しく伝えることができるか。このうちのどれか１つが欠けても、ビジネスはうまくいかなくなります。中央大学商学部では、このそれぞれに専門学科が対応して専門的な研究と教育を行うとともに、学科間の垣根をできるだけ低くすることで、１つの専門知識だけに偏らないように、カリキュラムが工夫されています。また、ビジネスに直接かかわることだけでなく、企業をとりまく経済や法律について、あるいは歴史、環境、文化についても広く学ぶことができます。大学での学修は皆さん自身で設計するものです。ご自分の夢と希望を叶えるために、皆さんならではの時間割を作って、実りある大学生活を送ってください。

昔、ある経済学者がこんなことを言いました。「漸進もまた行動である。無為にたたずむことの上品な別名ではない」。「漸進」とは漸近線などという言葉があるように、だんだんと進むこと、少しずつゆっくり進むことを言います。毎日の学修も部活での練習も、その成果が現われるには長い時間が必要です。１日や２日でその結果が現われることはありません。そうすると私たちはつい、これでは何もしていないのと同じで、無駄な時間を過ごしているのではないか、と考えてしまいます。しかし、たとえゆっくりでも、それは進んでいるのであって、止まっているのではないのです。皆さんのこれからの努力は、あとで必ず大きな実りをもたらします。それを信じて、少し難しい勉強、少しきつい練習、少し高めの目標に、果敢に取り組んでいってください。

中央大学商学部は、さまざまなかたちで皆さんをサポートします。皆さんの大学生活が、皆さんお1人おひとりにとって、かけがえのない日々となることを心より願っています。

中央大学で充実した学生生活を過ごして下さい

理工学部長
梅田 和昇
UMEDA Kazunori

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心から歓迎します。また、ご家族の皆様にもお慶び申し上げます。ご子女がここまで来られたことに、感無量の思いを抱かれていることと拝察いたします。

理工学部の10学科では、それぞれの学科の教員が各分野に応じた優れたカリキュラムを組み立て、各科目で充実した多様な教育を行っています。皆さんには是非この環境を最大限活用して欲しいと思います。ようやく受験勉強から解放された訳ですが、皆さんはこれから更に高度の学びをしていく訳です。勉学の努力を継続して下さい。そうすれば、自ずと皆さんの能力（コンピテンシー）が高まっていきます。

一方で、あくまで勉学はしっかりした上でということになりますが、勉学以外のことにも是非取り組んで欲しいと思います。理工学部のカリキュラムはかなりハードではありますが、それでも若いエネルギーに溢れた皆さんなら時間を作り出すこともできると思います。何に取り組むかは皆さん次第で、例えば部活やサークルでも趣味でもアルバイトでもボランティアでも、何でも良いと思います。普段の授業に加えて、そういった課外活動も通して、良き友人を作り、コミュニケーション力や人間力を向上させ、そして大学生としての生活を謳歌して欲しいと思います。なお、4年生になれば皆さんは研究室に所属して理工学部での学びの集大成として卒業研究に取り組み、さらには大学院で本格的に研究を行っていくことになります。この段階に至ると、皆さんの生活は研究室での活動、研究一色となり、課外活動にあまり時間を割けなくなることも覚悟しておいて下さい！

学部生の時に勉学も課外活動も頑張り、大学院で優れた立派な研究成果を挙げて、社会に巣立って中央大学で獲得したコンピテンシーを活用して活躍する、そういうキャリアを是非歩んで欲しいと願っています。社会に出ると、そうやって活躍されている皆さんの先輩方が、様々な分野に大勢いらっしゃいます。

皆さんが中央大学で大いに成長されること、そして充実した学生生活を過ごされることをお祈りしています。

異郷の地で、ひとと出会い、考える

文学部長
新原 道信
NIIHARA Michinobu

ご入学おめでとうございます。故郷を旅立ち、大学という異郷の地にやって来た新入生の皆さんにまず伝えたいことがあります。ぜひ大学という異郷の地を生かしてください。異郷の地で、はじめてひとはものを考えます。慣れない環境での居心地の悪さも、「何かを考える環境として、そう悪くないのかな」と自分に言い聞かせ、新たなことに驚嘆する気持ちと探求心を持ち続けるようにしてください。

「無為な時間」も大切です。大学生の頃の私は、なかなかダメな自分を受け入れられず、実に頭の悪いやり方で、ただやみくもに、右へ左へと疾走し、挫折し、悩みうずくまる時間を過ごしました。しかしその「無為な時間」は、後の自分の人間としての幅、懐の深さにつながる貴重な体験だったといまは理解できます。体育会でリーグ戦のために合宿し、自分の専門とは異なる物理学や脳科学、インド哲学、イタリア史、ドイツ文学、たくさんの語学の授業などを受講し、先生方が参加する研究会や市民の方たちの集いにも顔を出させてもらいました。つまりは、大学内外の“異郷／異教／異境”の地を放浪していたことになります。

最初は、“たったひとりで異郷／異教／異境の地に降り立つ”という気持ちでしたが、様々な先生や先輩や同級生や街のひと、異なるタイプの様々な他者に出会いました。居場所のなさ、居心地の悪さのなかで、複数の目で見て、複数の声を聴き、複数のやり方で考え書いていくことを学びました。卒業間際になって、“ともに（共に／伴って／友として）創ることを始める”ことの意味を体感しました。同期のゼミ生といっしょに卒業論文を書いた体験は、大学教員となってから、学生の皆さんといっしょに学ぶ場を創っていくというスタイルへとつながっています。

大学での学問は、「われもひとなり、かれもひとなり、われもいきもの、かれもいきものなり、われもかれも、ものよりいで、ものにかえるものなり」――どんなひとであれ、どんな生き物であれ、どんな自然であれ、ただ存在するという理由のみによって静かに尊重されるような世界をつくるための“智”です。

これから前人未踏の地（no-man's-land）を歩いて行くのだという気持ちで、縦横無尽に様々な領域を横断して、「失敗」も気にせず、自分を開いて、うごいてみてください。あなたの“出会い”が、味わい深いものとなりますように！

複眼思考とエヴィデンス・ベースの議論を

総合政策学部長
青木 英孝
AOKI Hidetaka

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのこれまでの努力に敬意を表し、教職員一同心から歓迎いたします。また、皆さんをこれまで支えてきてくれたご家族にも心からお喜び申し上げます。

大学での学びでは、知識のインプットだけでなく、知識をいかに活用し、どんな価値を生み出すかも重要になります。何を、いつ、どうやって学ぶかなど、自由裁量が大きいことも特徴です。好きなことを学べるので、好奇心や様々なことに疑問をもつことが大切です。また、自由であるが故に自己規律が求められます。皆さんには大きな可能性がありますが、ボーっと生きていると何にもならない可能性も同じくらいあります。コロナ禍を理由に勉学を疎かにする人と、他人に差をつけるチャンスと捉え真摯に学問に向き合う人とでは、後々大きな実力差がつきます。中央大学では實地應用ノ素、すなわち不確実性の時代でも様々な変化にしなやかに対応できる基礎力の高さを身につけて欲しいと思います。

学問はスポーツや芸術と似ています。基礎の習得には地道な努力が必要です。部活などで一見単純な基礎練習を日々繰り返した人も多いと思います。でも、基礎を固めたからこそ、それを自由に応用する楽しさが待っていたはずです。大学でも基礎を学び、興味のある研究テーマを見つけ、学問の楽しさを実感してください。

なぜ富士山は高く美しいのか。それは裾野が広いから。自分を高めるために、多くの経験を積み視野を広げてください。学際性と国際性を特徴とする総合政策学部では社会問題の解決を志向しますが、社会は多様で、変化も速く、複雑です。例えば、国家対立の背後には、政治体制や経済政策などの違いだけでなく、人種や宗教、歴史観の違いなど様々な要因があります。だからこそ、複数の学問から本質に迫るアプローチが有用なのです。面倒なことに、一つの解決策が別の問題を引き起こすこともよくあります。新型コロナ対策でも、人流抑制と経済活性化という相反する施策のバランスが問われました。社会問題では、正解は一つとは限らず、正解がない場合も、正解が複数ある場合もあります。白か黒かの単純な二択ではなく、灰色も実に多いものです。さらに、時代とともに正解が変わってしまうことさえあります。だからこそ、複眼思考とデータなどの証拠に基づく論理的な議論が重要なのです。

人生に大きな影響を与えるのは、得てして先人の知恵が詰まった書物か、人との出会いだと思います。大いに研究し、社会勉強し、生涯の友人を得てください。中央大学での学生生活が実り多いものとなりますように。

Open a Gateway to the World

国際経営学部長
中迫 俊逸
NAKASAKO Shun-itsu

We would like to welcome all of you to Faculty of Global Management of Chuo University, which we call it GLOMAC.

As you may know, our slogan at GLOMAC is “Be Ahead of the World.” We wish that you will become one of the leaders in the global society, so we will try hard to provide education and research for you on management, economics, data science, global area studies, and other related academic fields. We earnestly hope that you will bring benefit to the world and will work for the prosperity of the world.

Please make a lot of friends at GLOMAC. We expect you learn a lot from each other and will be able to see things from different cultural viewpoints. The four years of college life at GLOMAC will provide you a great opportunity to make life-long friends. We would like to highly encourage you to make a lot of friends by enjoying the rich opportunities provided at GLOMAC.

Please spend a meaningful college life so that you will be able to see how much you have grown in four years. We understand that it is not easy to open the gateway to the world. Please embrace the variety of rich opportunities at GLOMAC. The faculty members and our office staff all wish that you will learn a lot and will understand many different viewpoints of people from different cultures here at GLOMAC.

「メタバース」の負の影響を極小化できる人材たれ

国際情報学部長
平野　晋
HIRANO Susumu

ご入学、おめでとうございます。国際情報学部は、〈情報の仕組み：IT〉と〈情報の法学：Law〉の統合知を通じて、社会の要請に応える人材育成を目指しています。その理念は「情報の仕組みと法の統合」を意味する「integrated (IT + Law)」によって表現され、その頭字語である「iTL」は当学部を表します。

iTLの創設以来、その学びの対象としてきた主なITと法学分野は、インターネットとサイバースペース、AIとデータサイエンス、そしてロボットとCPS(Cyber-Physical System)でした。そこに最近〈メタバース〉が、新たに加わりました。メタバースは、あたかも映画「アバター」(2009年)の主人公が、身体機能拡張を通じハンディを乗り越えて社会参加の機会を享受したように、人々にとって有用な、様々な効用を生み出してくれると期待されています。新しもの好きなマスコミも、昨年度からメタバースを大いに取り上げて、少々過熱気味な風潮が日本を席巻しています。

他方アメリカの法学においてメタバースは(も)、インターネットやAI等の新興技術と同様に、負の側面が懸念されています。例えば仮想世界におけるアバター間の相互作用や社交は、あたかも〈仮面舞踏会〉や〈白日夢〉に似た感覚を利用者に与えてくれると評される一方で、そこで用いられるVR/ARのような高度な技術は、とても大きな現実感、没入感、及び執着心を生み、そこに耽溺する者も出てくると懸念されています。更にアバター間の相互作用は、経済活動と余剰を生む反面、仮想財産の取引から紛争も生まれ、利用者自身の投影であるアバターの権利と権利侵害(?!)さえも論じられています。利用者が虚栄にさいなまれる世界も、映画「サロゲート」(2009年)や小説『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』(1968年)が描くディストピアのように心配されます。更には江戸川乱歩がいみじくも言い表した「うつし世はゆめ__よるの夢こそまこと」のように、夢と現実が逆転する映画「トータル・リコール」(1990年)や「インセプション」(2010年)に象徴される問題も指摘されています。

新入生の皆さんには、メタバースに代表される、新興技術の利点と不利益の双方を理解し、かつその利点を伸長させつつその不利益を極小化させる技術的対策と法的対策の双方を思考し実装できる能力を、是非ともiTLにて学んで下さい。